

Communication



2022年度 プロジェクト科目紹介

2023年2月更新版



関東学院大学 人間共生学部
コミュニケーション学科
共生デザイン学科

人間共生学部では、3年生の春学期に学生全員が「プロジェクト科目」と呼ばれる活動を行います。

これは、学生たちが大学内にとどまらず、実際に外に出て、社会の中での様々な課題を見付け出し、その解決法を考えていくという学習のかたちです。画期的な試みとして、3年生の春学期は、このプロジェクト科目に集中して取り組めるようなカリキュラムになっています。これによって長期滞在などを伴うプロジェクトも可能になっています。

このプロジェクト科目で得た経験を、3年生秋からの本格的なゼミナール、さらには卒業研究、そしてその先の就職活動に活かしていくこととなります。

人間共生学部では、コミュニケーション・プロジェクトと、デザイン・プロジェクトの中から1科目以上を選んで取り組んで行きます。

科目名	担当者	テーマ	ページ
コミュニケーション・プロジェクト1	新井 信一	中長期のインターンシップ	1
コミュニケーション・プロジェクト2 & 3	松下 倫子	「学生が受けたい授業の企画」と「開講」	2
コミュニケーション・プロジェクト5 & 6	黒崎 真由美	英語圏の大学での語学研修プログラム (A) (B)	3
コミュニケーション・プロジェクト7	山田 留里子	中国・北京大学での中国語研修	4
コミュニケーション・プロジェクト8	施 桂栄	中国文化についての調査・体験 (江蘇省・江南地域)	5
コミュニケーション・プロジェクト9	松下 倫子	インターンシップ (神奈川県情報サービス産業協会)	6
コミュニケーション・プロジェクト10	石井 充	日本の伝統文化を体験的に学ぶ	7
コミュニケーション・プロジェクト11	Jason Moser	Learning to Master Popular Visual Technology	8
コミュニケーション・プロジェクト12	折田 明子	インターネットを活用した情報発信・広報の計画立案・実践	9
コミュニケーション・プロジェクト13	佐野 予理子	公園の心理効果についての調査プロジェクト	10
コミュニケーション・プロジェクト14	道幸 俊也	問題発見から課題解決～知の実践～	11
コミュニケーション・プロジェクト15	川村 寛文	アイデンティティと文化の政治に関するフィールドワーク (in 沖縄)	12
コミュニケーション・プロジェクト16	山田 留里子	中国のSDGs背景知識を学び、SDGsの達成に向けた啓発活動の企画	13
コミュニケーション・プロジェクト17	奥田 博子	記憶の場をめぐる諸問題について考える	14
コミュニケーション・プロジェクト18	大友 章司	応用心理学による災害リスクアセスメントの体験とソリューションの提案	15
デザイン・プロジェクト1	神野 由紀	Chigasaki Organic Farmにおける食文化のデザイン・プロジェクト	16
デザイン・プロジェクト12	二宮 咲子	自然と共に生きる暮らしのデザイン・プロジェクト	17
デザイン・プロジェクト3	立山 徳子	地方・田舎の空き物件再生と新しいライフスタイルの実践について	18
デザイン・プロジェクト6	佐野 慶一郎	環境学に基づく海外交流の実習	19
デザイン・プロジェクト5	山崎 稔恵	ファッションショーで魅せる横浜スカーフ	20
デザイン・プロジェクト10	海老根 秀之	プロモーションビデオ制作	21
デザイン・プロジェクト8	佐々 牧雄	SF思考ワークショップ通して手法自体を改善する	22
デザイン・プロジェクト17	佐々 牧雄	デザイン思考の基本をワークショップの体験を通して修得する	23
デザイン・プロジェクト9	兼子 朋也	空き家再生プロジェクトの実践 (横須賀・三浦地域)	24
デザイン・プロジェクト11	日高 仁	「コミュニティDIY」による「キャンパスリノベーション」	25
デザイン・プロジェクト13	淡野 哲	「ストップモーション・アニメ制作」 コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ	26
デザイン・プロジェクト14	小林 和彦	作品展示の企画と実践	27
デザイン・プロジェクト15	兼子 朋也	「空き家再生プロジェクト」の体験と調査	28
デザイン・プロジェクト16	日高 仁	「空き家再生プロジェクト」の体験と映像制作	29

※ 2022年度休講

2020年度～2022年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、内容を変更して行った科目がありますが、記載内容が2019年度までの通常の内容になっている科目もあります。



「中長期のインターンシップ」

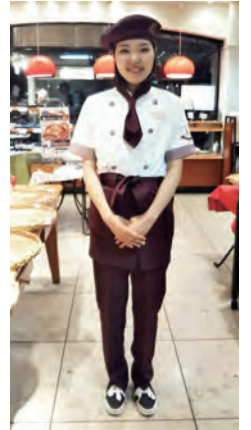
プロジェクト概要

「180時間以上のインターンシップ」
課題を設定しながら、学外の組織で、実際に社会人の一員として仕事を体験します。



株式会社 関学サービス

金沢区通所介護事業者連絡会



インターン先は変わることがあります。
詳しくはお問い合わせください。

「学生が受けたい授業の企画」と「開講」

プロジェクト概要

学校の授業科目はあらかじめ用意されていて、学生は選択できても創造できないのが、これまでの大学カリキュラムでした。

このプロジェクトは、学生が自分たちの受けたいと思う授業を、自分たちで企画し、実現させます。

まず、各自が関心を持っているテーマについて概要を調べて全員の前で発表します。1学期14回分の授業を企画しなければならないので、単に「おもしろそう」というだけでは、行き詰まります。かなり深く掘り下げて調べることが必要です。履修者全員でプレゼンとディスカッションを重ねて、複数の提案の中から、ひとつの授業を組み立てます。

次に、現在提供されている学部・学科のカリキュラム全体を見渡して、同じような授業が開講されていないことを確認します。また、カリキュラムの中のどの分野の授業なのかについても検討します。

実際に授業として開講するためには、講師の候補者探しと出講交渉が重要になります。まずは、自分たちが受講している科目の中で、開講したい授業に関連する科目を選び、担当の先生に相談します。その先生が引き受けてくださることもあれば、別の先生を紹介してくださることもあります。

お忙しい先生方にご迷惑にならないような時間を選び、きちんとした企画書や挨拶状を持参して出講のお願いに上がります。

文書作成能力、メールや電話、対面でのコミュニケーション能力が養成されます。

2018年秋学期に開講した授業の紹介チラシ。学生が作成しました。⇒

秋学期開講のコミュニケーション・プロジェクト3では、春学期に企画した授業を実際に開講します。

2018年度は、実際に3名の先生方が全5回の授業を開講しました。学内広報活動や、授業担当の先生との連絡、配布資料の準備、授業後のアンケート等も行いました。授業は大変好評でした。

2019年度は講師の選定に時間がかかり、秋学期の開講は実現できず、2020年度は新型コロナの影響で休講となりました。2021年度・2022年度はシラバスは完成したものの、講師の交渉には至りませんでした。自分達で授業を企画していく中で、数多くの学びがありました。

ご招待されています

授業のお誘い

講義名：パフォーマンスと緊張

講師

伊藤賀永(本学教育学部教授)

大槻茂久(本学非常勤講師・神奈川大学女子サッカー部監督)

武野顕吾(臨床心理士、ボールパークコーポレーション)

授業概要

- ・緊張が心理に与える影響
- ・応援によるパフォーマンスの変化
- ・サッカーのルーティンがもたらす緊張緩和

日付	時間	教室	講師名
11/9 (金)	2限	(建)1-504	武野先生
11/15 (木)	4限	(建)1-504	伊藤先生
11/16 (金)	2限	(建)1-504	武野先生
11/20 (火)	4限	(建)1-504	大槻先生
11/30 (金)	2限	(建)1-504	武野先生

この授業は人間共生学部コミュニケーション

プロジェクト2で企画しました。



「英語圏の大学での語学研修プログラム」(A)(B)

プロジェクト概要

英語圏大学での4～5週間(A)、または8～10週間(B)の語学研修プログラムです。期間中は、現地の家庭にホームステイ (LU、UON)、あるいは大学の寮に滞在 (SU、CCSU) します。英語の学習はもとより、海外で「生活する」ことによって、異文化世界を自分の目で見て、体で感じる学びを得ることができます。異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションを通じて、相互理解の重要性を認識するとともに、日本を見つめなおす好機になります。

留学先は、下記の4大学です。

- 【LU】 リンカーン大学 (ニュージーランド)
- 【SU】 サンウェイ大学 (マレーシア)
- 【UON】 ニューカッスル大学* (オーストラリア)
- 【CCSU】 セントラル・コネチカット州立大学* (アメリカ)

*コミュニケーション学科のダブル・ディグリー・プログラムの相手校です。コミュニケーション学科の学生がいずれかの大学で学び、双方の卒業要件を満たすことで、2つの大学の学位を同時に取得できます。



リンカーン大学 (ニュージーランド)
1878年設立の歴史ある大学。ラグビー大国のニュージーランドでは、語学研修はもちろんのこと、英語+ラグビーのプログラムも用意されています。

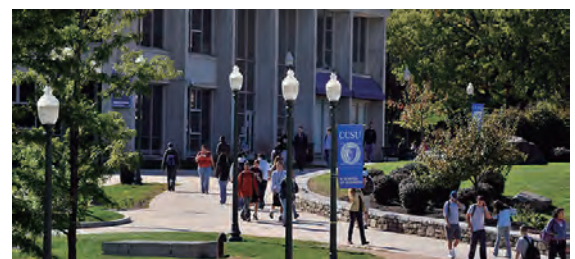


サンウェイ大学 (マレーシア)
マレーシアを代表する私立大学。学生寮はプール付きのリゾートホテル並み！先生もクラスメイトも、皆とってもフレンドリー。でも最も宿題の多い留学先でした。

Study Abroad



ニューカッスル大学 (オーストラリア)
シドニーから北170キロのニューカッスルに位置する総合大学。ホームステイをしながら自然あふれるキャンパスで学び、週末はシドニー散策ですっかりオージー (Aussie) 気分！ホストファミリーとは会話も弾み、第二の家族ができました。絶対にまた「帰り」ます。



セントラル・コネチカット州立大学 (アメリカ)
創立1849年の、コネチカット州で最も古い公立大学。ニューヨークとボストンの中間に位置し、クラスの遠足では魅力的な二大都市を訪問しました。

「中国・北京大学での中国語研修」

プロジェクト概要



中国の北京大学中文系で、中国語教育の専門の先生による、少人数形式の**中国語力**をつけるプロジェクトです。

⇒2019年度は14名の参加がありました。

以下は、参加者の感想です。

中国北京放送局への訪問北京放送局で出会った方のお話が私の中では一番印象に残っています。こんな熱心にお仕事している人の話を直接聞けて刺激になりました。普段入れない収録している所にも入れて、とても嬉しかったです。北京大学や放送局で感じた事を忘れずに感じたことを活かしていきたいなと思いました。
(高橋かれん)

このプロジェクトで多くのことを学び、経験することができた。来年には、オリンピックがあり、実際に中国語を使う場合があるかもしれない。その時に簡単なコミュニケーションが取れるように語学力を身につけたいと思う。今回得た経験、視点を今後大学生活やその先に活かしていきたいと思う。(山本慧)



担当教員:山田 留里子(やまだ るりこ)



北京大学中文系前



中国国際放送局前

「中国文化についての調査・体験(江蘇省・江南地域)」

プロジェクト概要

社会のグローバル化に伴い、文化の多様性を知ることが求められ、異文化を理解する力を身につけるのも必要とされている。

そのため、本プロジェクト科目では、中国東南部江蘇省の江南地域(揚子江文明の一地域)を対象とし、常州大学日本語学科の学生と合同で中国の歴史や人文、社会、人間行動などの視点から、江南地域の文化について調査し体験的に学ぶことを目的とする。

関連知識の学習と研究テーマ・調査計画の策定から始め、2週間現地調査の実施、結果のまとめ・発表などを行うことによって、中国文化への理解を深めることが到達目標である。



文筆塔(常州市内・1500年前南北朝時代建造)。常州は、進士1,333名(科挙合格者)、状元(科挙の成績が全国一位の人)9名、のエリートを輩出した土地として有名、塔の頂に華やかな光が現れると、常州辺りで必ず状元が出るとの伝説も生まれたそうです。



常州大学日本語学科の学生と交流・合同学習



春秋淹城遺跡見学・調査(常州市)



中国呉文化博物館・鴻山遺跡(無錫市)



山塘街古鎮見学・調査(水郷の街-蘇州市)



惠山古鎮(無錫市・数百年から千年の歴史を持った古い町)



プロジェクト概要

一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会(神情協・しんじょうきょう)のご協力により、協会会員の企業で、1~2週間のインターンシップを行います。

情報サービス産業とは、ソフトウェアやシステムの設計や開発などの情報サービス提供を主たる業務とする、IT産業の1分野です。

業界企業内の職種としては、システムエンジニアとプログラマーが約6割ですが、管理・営業部門にも約18%が従事しています。

インターネットやスマートフォンを誰でも使用する現在、社会における情報システムの重要性はますます大きくなってきています。

理工系の学生が多く就職するイメージが強い情報サービス産業業界ですが、昔も今も、文科系の学生にも高いニーズがあります。なぜなら、経営戦略に寄与するシステム開発はもちろん、一般消費者の視点からのサービス開発が求められているからです。

神情協は、神奈川県内のIT企業が集まり、産業の発展や地域社会への貢献を目的として1987年に設立された一般社団法人で、賛助会員を含めた会員数は348社(2022年度)です。

従業員50名以下の規模の企業が全体の54%と、中小企業が多く、一人一人の学生と真剣に向き合い、丁寧に対応してくれます。

受入れ企業・期間・研修内容・応募条件等は、2月頃に決まる予定です。学生と受入れ企業とのマッチングは春休み期間(1月~3月)に行います。

IT分野の専門知識不問の企業が多いので、プログラミング未経験者でも研修に参加でき、就職活動につながる貴重な経験を得ています。

2018年度実績

5社から計19名の受入れ枠を頂きました。
調整の結果、5名の学生が4社に参加しました。

2019年度実績

5社から計18名の受入れ枠を頂きました。
調整の結果、5名の学生が3社に参加しました。

2020年度実績

3社から計7名の受入れ枠を頂きました。
新型コロナの影響で1社は中止になりましたが、1名の学生がオンサイト、2名の学生がオンライン参加。

2021年度実績

4社に計4名が参加しました。
新型コロナの影響で1名は参加辞退しましたが、2名の学生がオンサイト、1名の学生がオンライン参加。
※この年度は新型コロナ感染拡大の影響で個別応募となった。

2022年度実績

1社に計1名が参加しました。
※この年度は新型コロナ感染拡大の影響で個別応募となった。

過去の研修内容と期間の実績

- ・IoT技術の新サービス企画(10日間)
- ・野球対戦分析ソフト(その企業が開発販売している実際の商品)を元にした提案書作成(10日間)
- ・実際のWebサイト画面作成(8日間)
- ・システム開発・事務作業補助(6日間)
- ・IT業界セミナー受講と社内業務改善企画(6日間)
- ・商談(営業活動)同行と展示会出展準備(6日間)
- ・新入社員研修への参加とグループワーク(6日間)
- ・システムエンジニア業務や営業のフォロー(5日間)
- ・インフラ構築の基礎(2日間)
- ・プログラミング体験(1日)・業界職種研究(1日)

過去の研修の実施時期

- ・4月 2社 ・5月 2社 ・6月 1社
- ・7月 1社 ・8月 6社
- ※1企業が複数回実施することもある。

【参考サイト】

一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会
<https://www.kia.or.jp/>
一般社団法人 情報サービス産業協会
<https://www.jisa.or.jp/>

「日本の伝統文化を体験的に学ぶ」

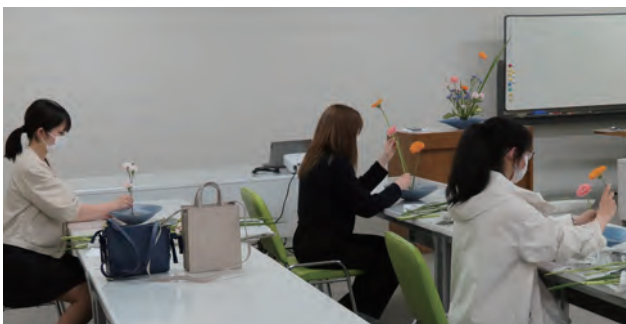
プロジェクト概要

本プロジェクトでは、日本の伝統文化を体験的に学ぶことを通じて、文化のあり方や意味について考えます。具体的には、京都市において、

- ・ 祇園祭の見学
- ・ 茶道の体験
- ・ 華道の体験
- ・ 日本茶ブレンド体験
- ・ 日本庭園見学

などの活動を行います。

これらの活動を通じて、真の伝統文化とは、変わらずに続いているものではなく、むしろ、変化し時代に適合することによって存続してきたこと、文化は必ずしも連続的に続いているわけではなく、しばしば断続的であること、日本の伝統文化といっても、日本固有のもののみから成り立っているわけではなく、一定の国際性を帯びていること、などを各自の体験を通じて実感してもらいます。



プロジェクト概要

Self-learn how to use current digital tools and technology (smartphones, drones, GoPro's, 360° cameras, software) beyond a beginner level.



「インターネットを活用した 情報発信・広報の計画立案・実践」

プロジェクト概要

このプロジェクトでは、インターネットを活用した情報発信を実践しました。

まずメディアの特徴、プライバシー保護等について学びました。次に、実際に自分たちで書いた文章をTeams上で互いにレビューした上でZoomの画面共有機能を用いて教員が添削し、「伝える」ための文章を徹底的に練習しました。

2022年度は、個人プロジェクト、女性をターゲットにした筋トレ方法を発信するグループ、「関内キャンパス」周辺に関わるランチやレジャー情報を発信するグループで活動しました。現場に行って撮影したり取材したり、自分で素材を集めてコンテンツを作ったりし、それらをより多くの人に見てもらうためにSNSの特徴をふまえて試行錯誤しました。

女性たちにむけた筋トレ方法や ダイエットの情報発信



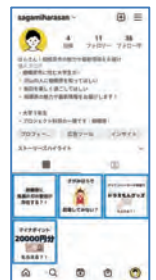
20-40代の女性を対象にアンケート調査を実施。その結果をもとに日常生活でできる筋トレをInstagramで紹介しました。ハッシュタグを工夫したり、こちらから関連アカウントをフォローするなど、フォロワーを増やす工夫もしました。

個人による情報発信

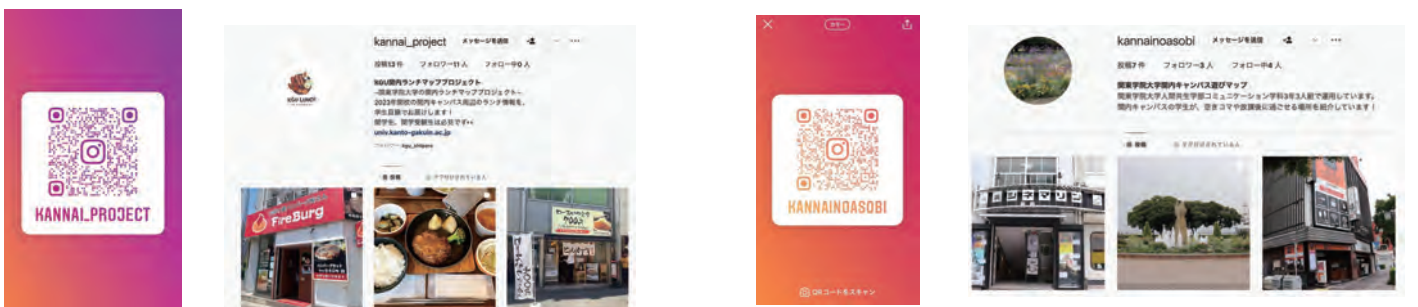
横須賀市・馬堀海岸のおすすめスポットや施設の情報を集め、自ら撮影した写真とともにWebサイトにまとめました。
(※期間限定につき現在は削除)



相模原市の情報をInstagramで発信。デザインを工夫し、色の統一やひと目で情報がわかる画像作りをしました。
(※期間限定につき現在は削除)



関内周辺マップづくり（ランチ・レジャー情報）



関内キャンパスで学ぶときに役立つ情報をまとめました。実際に足を運んだり、キャンパスからの時間を計測したりしています。

「公園の心理効果についての調査プロジェクト」

プロジェクト概要

環境心理学の観点から公園の心理効果について調査するプロジェクトです。まず、環境心理学の視点や研究方法についてゼミ形式で学びます。次に、各自テーマ設定を行い、フィールドワークを行います。最後に、フィールドワークによって得られた成果を発表します。

なお新型コロナウイルス感染拡大を受け、今年度のプロジェクトは公園に限定せず、各自可能な範囲でフィールドを設定しました。

【プロジェクトの流れ】

1. 環境心理学の視点や心理学研究法について学ぶ。
2. テーマやリサーチクエスチョンを設定する。
3. フィールドワークを行う。
4. 調査で得られた成果をまとめる。
5. 研究成果を発表し、振り返りを行う。

ある履修生の調査の一部を紹介します。この学生は、海岸を訪れる人たちのマスクに着目しました。具体的には、海岸というオープンな野外では、人々はそもそもマスクをしているのかどうかについて調査をするとともに、マスクを着用している人のマスクの種類について観察調査を行いました。フィールドは片瀬西浜・鵜沼海水浴場です（写真参照）。観察調査は7月16日の7時～8時、12時～13時、17時～18時、の計3回行いました。



片瀬西浜・鵜沼海水浴場

得られた結果を表1と表2に示しました。全体的に、マスク着用の方が未着用の人より多いことがわかりましたが、未着用の方の割合も少なくありませんでした。マスクの種類については、不織布マスクが多いものの、年代によってウレタンマスクの着用率に違いが見られました。年配者より若者の方がウレタンマスクを着用している人が多い傾向があることがわかりました。

表1. マスク着用の人および未着用の方の人数

年代	7時～8時		12時～13時		17時～18時	
	マスク着用	マスク未着用	マスク着用	マスク未着用	マスク着用	マスク未着用
～20歳	5	4	21	27	97	36
30歳～40歳	10	0	30	6	40	22
50歳～	15	2	25	2	48	4
計	30	6	76	35	185	62

表2. マスクの種類別人数

年代	7時～8時			12時～13時			17時～18時		
	ウレタン	不織布	その他	ウレタン	不織布	その他	ウレタン	不織布	その他
～20歳	2	3	0	8	8	5	32	55	10
30歳～40歳	2	8	0	3	21	7	10	7	23
50歳～	3	9	3	0	19	6	7	17	24
計	7	20	3	11	48	18	49	79	57

「問題発見から課題解決～知の実践～」

プロジェクト概要

このプロジェクトでは実務界における社会人として活動していくために、身につけないといけない様々なスキルがある。問題発見力、課題解決力、そして、それらを分かりやすく伝えるプレゼンテーション力、また、その内容を根拠をもって説明するために必要な分析力、これらのスキルを座学で学び、実際の現場でヒヤリングし、そこから問題を抽出する。そして、その問題から課題を見出し、解決策を提示するという一連のビジネス作業を実践する。これらの活動を通して、自分に得意なことはどのようなことか、一方で苦手とすることはどのようなことなのかを認識し、社会人として活動していくための今後の目標を見出す。

【事前学習】

- ①論理的思考について
- ②水平思考について
- ③組織行動について
- ④プレゼンテーションの方法
- ⑤GTA(グラウンデッド・セオリー・アプローチ)
- ⑥インタビューの方法

2. 水平思考と垂直思考の違い

思考法	水平思考	垂直思考
結論	結論は複数存在する	結論は基本的に1つだけ
目的	本質を捉えつつ、思考の幅を広げる	論理的に筋道を立てた上で、結論を導く
既存概念の有無	既存概念にこだわらない	既存概念に基づいている

＜まとめ＞

インタビューする際は・・・
◎「問いかける技術」が必要

POINT⇒「謙虚に問いかける」

「謙虚に問いかける」とは・・・

- ◎その人のことを理解したいという純粋な気持ちをもって関係を築いていくための流儀。
- ◎相手の警戒心を解くことができる手法。

【東京ドーム訪問～2019.6.17～】

・東京ドームの方から説明を受け、録音データから逐語録を作成



・逐語録から概念を抽出し、関係図を作成

【現状把握】



・関係図から見えてきた課題をもとに、解決案を作成

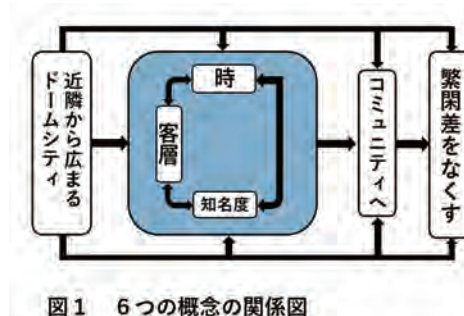


図1 6つの概念の関係図

概念①: 客層	概念④: 知名度
坂本さん：あ、もちろん、野球旅行で利用されてきたりとか、こういう風にいろんな層のお客層を呼ぶような施設をやっているんで、そうならないようなことにはなってるんですけど、その差はやっぱり狭くなってますね。	久岡さん：これはいけるかもって言う感じだもんだもんで、中々地方の方がどどん人ってもって感じじゃなくて、そのオンラインで伝える難しさというか、色々SNS広告完結はいいかというところではないし、意外とまあ完成段階の前後のPRと露に広告出した方が増えたりとか、それなりに認知拡大しながらやってる所です。
坂本さん：やっぱり野球とかドームでコンサートがなくても、遊園地目的でファミリーの方とかカップルの方とか大学生とかたかさんの方が遊園地に通びに来てくれるので、それだけでも賑やかなんですけど	

【プレゼンテーション～2019.7.22～】

～3チームに分かれて新規事業案を作成し、東京ドームの方々に向けたプレゼンテーションを行いました～

【施設提供+イベント】年配層Ver.

若者Ver.

=Aチーム=

≪年配層と若者向けの広告方法と新企画の提案≫

- ◎若者向け⇒Instagramのストーリー機能や一般的な投稿
- ◎年配層向け⇒はがきDMやフリーペーパーなどの紙媒体

コミュニティの場を提供



出会いの場を提供



=Bチーム=

≪広域顧客の波と宣伝方法の解決案≫

- ◎広域顧客の波⇒music café
- ◎宣伝方法⇒YouTuberタイアップ企画

2. 解決案①→ music café

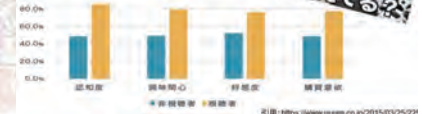
目的:ドームらしさを追及し広域顧客を獲得する
様々なアーティストとのコラボメニュー
平日限定メニューで土日との繁閑差を埋める
アミューズメントパークのチケット

3. 解決案②→YouTuberタイアップ企画

・YouTuberを起用した際の効果

匿名投稿アプリ「Rumor」とのタイアップ

タイアップ数値増強による顧客数増強

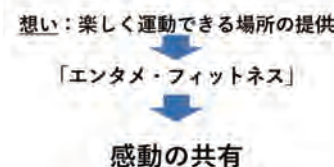


=Cチーム=

≪ライブ演出×フィットネス≫

- ◎新規事業の提案→“エンタメ・フィットネス”
- ◎広告方法→インフルエンサーへの依頼

【まとめ】



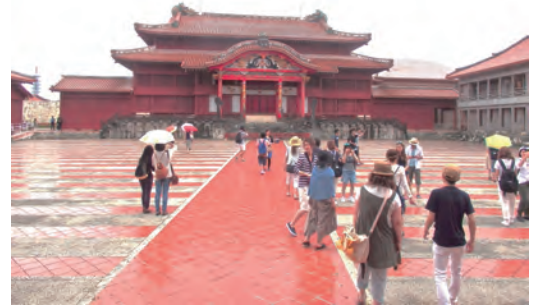
【概念の関係図】



「アイデンティティと文化の政治に関する フィールドワーク(in 沖縄)」

プロジェクト概要

本プロジェクトの目的は、共生の現場を理解し、経験することです。この目的を達成するために、沖縄でフィールドワークを行います。なぜ沖縄なのか？沖縄は、日本系、中華系、東南アジア系、そして戦後はアメリカ系が融合する「多文化」融合的な文化圏を構築してきました。しかし、その過程の背後には、植民地主義や戦争などの近代の重い歴史が大きく影を落としています。そのため、沖縄の人々は、常に自らの存在について問わざるをえない状況に置かれてきました。様々な文化を取り込み、共生してきた一方で、それは様々な権力的配置の中で、格闘しながらのものでもあったのです。この実習を通して、リアルな多文化共生の現場を、批判的に学ぶ機会を学生は得ることができるでしょう。



首里城



沖縄国際大学学生との交流



沖縄国際大学学生との交流 (米軍ヘリ墜落現場跡地にて)



辺野古基地のフェンス



沖縄市コザでの街歩き



コザのライブハウス

「中国のSDGs背景知識を学び、SDGsの達成に向けた啓発活動の企画」



プロジェクト概要

到達目標と実施内容

SDGsに関する日中における取り組みをそれらの国際的位置づけから学び、関連用語の中国語訳や中国と交流のあるアフリカの国々への現地経験のある講師とのディスカッションを通し国際理解を深め、SDGs啓発を企画します。

①JICA横浜での研修会: JICAの歴史やSDGsへの取り組みの現状、世界での活動について学び、国際協力への理解を深めます。

②外部講師の講義とディスカッション: 国際協力の実際の取り組み等についての講義を受け、ディスカッションを通し、気づきや実行へのきっかけにします。

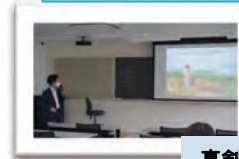
③学外交流とプレゼンテーション: チームでの高校生や他大学学生との交流を通し、「チーム力」や「コミュニケーション力」を高め、探求する心を深めます。

④SDGs啓発の企画: 今回はフェアトレード、再生コットン、エシカル消費などに関する理解を深め、SDGsエコバッグの図案とシールを作成。



ガイドの方からも直接お話を聞く学生たち

①JICA横浜での研修会



真剣にお話を聞く学生たち

JICA海外協力隊の方の講義風景
SDGsとJICA



積極的に質問する学生たち

講義内容

②外部講師の講義とディスカッション



フェアトレードは貧困から抜け出すための良い手段であるが、出来るのは、フェアトレードに対して関心を持ち、余裕がある時は積極的にフェアトレード商品を購入したり、周囲の人々啓発したりと出来るだけ多くの人々にフェアトレードについて関心を持ってもらうために行動することだと考えた。



作成したSDGS啓発イラストシール



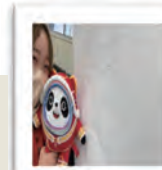
交流する学生たちと完成したエコバッグ

再生コットンを利用している商品を我々が購入しても、生産者の元に直接利益が行くわけではないが、生産者側に回れば地球に貢献することが出来ることを知って、自分に何が出来るかを考える良い気づきとなった。

作成したSDGS啓発エコバッグ

ネット検索で「JICAとは」と調べると公式HPやYouTubeのリンクばかり出てくるが、人々の関心がまだ低いという証拠であろう。国からの援助が出ているとはいえ、人々の関心が低ければ開発途上国の人々の暮らしの質を上げるのに膨大な時間がかかることが分かった。

③高校生との交流とプレゼンテーション



授業でのチーム別課題提出風景
チームでディスカッションし、時間内に提出



教材音源

manabaに提出された学生のレポート



「記憶の場をめぐる諸問題について考える」

プロジェクト概要

本プロジェクトは、「記憶の場」をめぐる諸問題について批判的に検証することを目的とする。

2022年度は、神奈川県横須賀市内に遺る「先の大戦」の跡を巡って、日本政府が国内外に向けて発信する「唯一の戦争被爆国」という言説に内在する「被害者意識」について反芻した。

フィールドワーク 1 横須賀鎮守府・海軍工廠 @神奈川県横須賀市



フィールドワーク 4 観音崎要塞 @神奈川県横須賀市



2022年度

新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、2022年2月に関東圏におけるフィールドワーク調査の場所を選択した。その後、各自が各フィールドワークの企画・立案を行って、実際には、翌3月にフィールドワークを実施した。

フィールドワーク 2 横須賀美術館 @神奈川県横須賀市



フィールドワーク 3 貝山・浦郷地下壕 @神奈川県横須賀市



担当教員：奥田博子(おくだひろこ)



「応用心理学による災害リスクアセスメントの体験とソリューションの提案」

プロジェクト概要

コミュニケーション・プロジェクト18では、応用心理学の視点から、現実社会の問題にアプローチし、ソリューションを提案することを目的としています。今回のプロジェクトでは、横浜の都市における災害リスクを対象にしました。具体的には、担当エリアごとの3グループに分かれ、それぞれの地域について、災害心理について理解を深め(講習)、DIG(Disaster Imagination Game)とよばれる図上型災害シミュレーション(専門家によるワークショップ)と、フィールド調査に基づくアセスメント(心理学に基づく現場調査)を行いました。その結果に基づき、安心・安全なまちづくりのソリューションを提案し、プレゼンテーションとして成果を発表しました。「森を見て木を見ず」ではなく、森(都市の構造)を見て、木(人目線)を見て、さまざまな問題を検討する心理学の視点をプロジェクトではトレーニングしています。現実の都市の問題に心理学でアプローチするというコミュニケーション学科ならではの実践的なプロジェクトです。

DIGを実践するワークショップ



DIGでは住宅地図を用いて、図上で都市の構造を見て、災害への弱み、強みをシミュレーションしています。“森の視点”(都市構造)という俯瞰で問題を検討しています。

フィールド調査(アンダーパスの場所を撮影)



フィールド調査では、DIGのシミュレーションを踏まえて、実際に街の現場に出向き、“木の視点”である人の目線に立って問題を評価することで、新たな気づきを経験します。

成果発表で作成したポスターの例

安心・安全なまちづくりのソリューションの提案～金沢八景から大学までのエリアのDIGとフィールド調査に基づく災害シミュレーション～

1. エリアについて

八景エリアは関東学院八景キャンパス・室の木キャンパスがあり平海沿に接している。シーサイドラインという鉄道路線を含め海には多くの橋がかけられている。住宅街に高い建物が少ないため、日差しが強い日や台風が強い日は金沢八景駅まで歩くには、大変なときもある。

DIG(Disaster Imagination Game)



災害図上訓練のことで、災害が起きた際の被害を住宅地図上で想定し、エリアの特徴や課題をイメージし考えること

フィールド調査



DIGの想定に基づき、エリアの現場調査を2回にわたり行い、災害時のエリア特性について具体的に知ること、記録化した。

2. DIG&フィールド調査によるエリアの災害の強み、弱み

強み: 水源が近いため消火活動を迅速に行うことができる。広い国道があるため、緊急車両が通る際や、救助活動が行いやすい。

弱み: 土地が低いことによる洪水、氾濫が懸念される。避難施設や物資調達場所が極端に少ないことから、長期の避難は難しい。

3. 地震&津波災害時のシミュレーション



まちの被害を大きくする構造的課題
一番の課題は、海に面していることによる津波の被害である。海には多くの橋があり津波によって崩壊した場合、ライフラインの選択肢が減ることになる。また、集合住宅が多く、火災が発生すると海沿いの強風などで燃え広がりが早い。さらには、津波に対応できるように早く避難できる高い建物の施設が少ない。

対応を過ぎる心理的課題
SNSや近所での不確定な情報で避難する「必要がない」と判断してしまうことが一番の課題だ。また、この地域には多くの保育園、幼稚園、学校、などがあるため、子供の安全を心配して避難できないことも問題点である。

4. 安心・安全のまちづくりのソリューション

まちづくり提案
津波から避難できる施設を増やし、住民に認知させる。阪神淡路大震災時も支援隊の救助がなくて近く住民が協力して復興作業をしていたことから、住民でも緊急時に扱える消火装置を設置する。

コミュニケーションの提案

災害時コミュニケーションアプリを作る。各地域に属する学校は必ずアプリを導入し、災害時に学校の行動を縦へ通知する仕組みにする。これにより、各々が避難しなければならないかどうかを正確に判断できる。ヒューマンエラーという言葉がある通り、緊急事態に陥ったとき人間自らが最善の選択を100%できるわけではないことから、システムという確実性の高いツールを普及することを提案する。



都市の問題をイメージするDIGと、生活者の目線で現場を評価するフィールド調査の結果を、図上でシミュレートさせ、街の問題と人の問題から、安心・安全のソリューションを提案しています。



「Chigasaki Organic Farm」における食文化のデザイン・プロジェクト

プロジェクト概要

現代の食の問題について、食文化に関わる知識を得た上で、現場の課題を発見してデザインによる解決策を提案するプロジェクトです。茅ヶ崎の農園Chigasaki Organic Farmを、茅ヶ崎の風土とともに理解し、熊澤酒造での野菜マルシェのデザイン提案をします。

1 事前調査・現地見学・販売実習



農園見学



販売実習



農園ロゴマーク

海と山、自然に恵まれた茅ヶ崎は食をはじめとする生活意識の高いエリアです。Chigasaki Organic Farmは、この茅ヶ崎で丁寧な有機農業を実践している始めたばかりの農園です。授業の前半では実際に現地の見学を行い、また野菜マルシェの販売も体験します。茅ヶ崎在住のデザイナーにより、農園のブランドイメージを視覚化したロゴマークも作られているので、事前学習としてデザイナーからデザインワークの経緯なども学びます。

2 課題発見のためのワークショップ

Chigasaki Organic Farmで大切にされていることは何か、見学した内容をもとに全員でワークショップで作成したイメージビジュアルを共有します。見学や実習では今回は農園のロゴマークが野菜マルシェで活かされていないことを見つけ、これを共通の解決課題とします。そして提案をより具体的なものとするため、短時間で手を動かして考えるラピッド・プロトタイピングを実施します。



ワークショップ

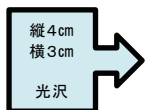


ラピッド・プロトタイピング

3 最終成果

班に分かれて試作と検討を繰り返し、最終的にこのような案を完成していきます。

1班 野菜パッケージ用シール



- Chigasaki Organic Farm について知ってもらうために、野菜の袋にロゴマークのシールを貼る。
- お客さんが野菜を家に持ち帰っても、シールでどの農家さんかわかる。

2班 野菜マルシェ用看板

- 【野菜マルシェでの課題】
- 看板に記載されている情報に誤り
 - ロゴが活用されていない
 - Chigasaki Organic Farm の宣伝不足

新しい看板のデザインを提案



3班 料理提案を盛り込んだパンフレット

Chigasaki Organic Farmについてより詳しく知ってもらい、野菜の活用方法のアイデアも提供できるパンフレットの提案



表と裏面には基本情報

料理紹介のページでは、農園の野菜を使ったそれぞれのお店のメニューを紹介。今回新たに考案してもらったメニューも。

プロジェクト概要

テーマ：農園と食卓をつなぐデザイン（有機農園で収穫体験イベントを企画プロデュース）
 神奈川県内の都市近郊農業の課題解決をおこないます。都市の自然共生を目的とした、新しい食文化や食を中心とするローカルビジネスをつくりだすモノ・コトをフィールドワークに基づき制作。茅ヶ崎市内の有機農園を対象地として収穫体験イベントを企画プロデュースします。

STEP1 事前学習・資料調査

神奈川県内の都市近郊農業の現状と課題を解決するデザインの可能性について、湘南・茅ヶ崎の食文化を具体事例として学習します。文献資料や各種統計データの調査及び現地調査に基づくレポートを作成します。

神奈川県の都市農業振興の意義

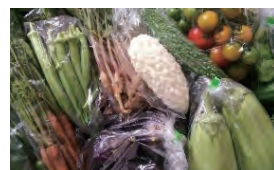
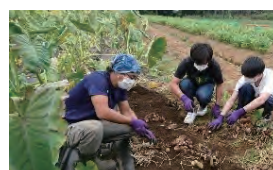
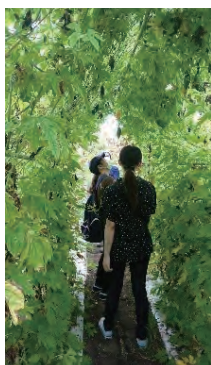
- ・ 県民の健康で豊かな生活の確保を図る
- +
- ・ 都市農業を持続的に発展させる
- ↓
- ・ 神奈川県都市農業推進条例
（平成18年4月1日施行）
- ①新鮮で安全・安心な食料等の供給
- ②農業の有する多面的機能の発揮

農業の多面的機能

- ・ 良好な景観の形成
- ・ 防災、県土の保全
- ・ 水源のかん養
- ・ 自然環境の保全
- ・ 文化の伝承
- ・ 情操のかん養など
- ・ 農業が適切に営まれることによって生じる様々な機能
 ⇒都市化の進む中で日常的に発揮

STEP2 現場で実習

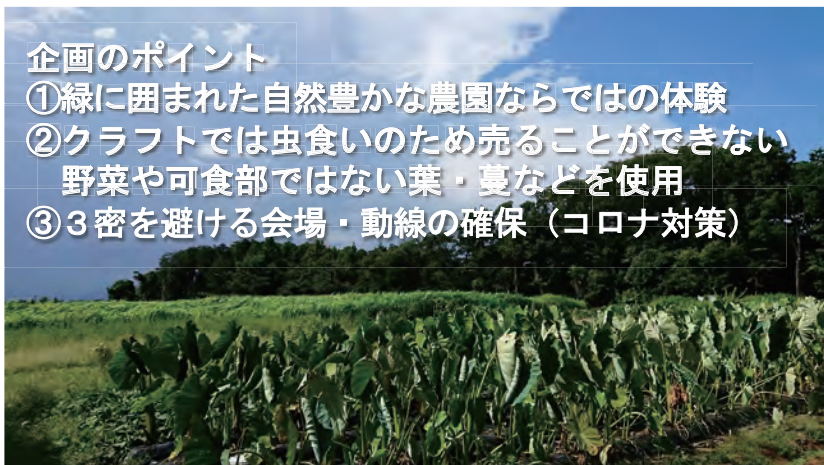
自然共生型の有機農業（農薬や化学肥料を使用しない）を現場で学び、播種や草取り・摘芯から収穫まで実習し、野菜の美味しさや農園の自然を体験します。有機農園（クライアント）のブランドイメージや現状・課題を聞き取り調査によって明らかにします。



STEP3 企画プロデュース：農園と食卓をつなぐ収穫体験イベントを開催

企画のポイント

- ①緑に囲まれた自然豊かな農園ならではの体験
- ②クラフトでは虫食いのため売ることができない野菜や可食部ではない葉・蔓などを使用
- ③3密を避ける会場・動線の確保（コロナ対策）



担当教員：二宮 咲子(にのみや さきこ)



デザイン・プロジェクト 3

「地方・田舎の空き物件再生と新しいライフスタイルの実践について」

プロジェクト概要

本プロジェクトでは地方・田舎に若年層が「住むこと」・「働くこと」・「育てること」・「地域に関わること」をどのように実践しているのか、またその実践に空き物件という物理的資源がどのように関わり、再生されてゆくのかを観察・調査しながら、空き物件と人との新しいライフスタイルを考えてゆく。履修者は①田舎暮らしをする若者へのインタビュー・データの読み込み、②千葉県いすみ市で空き物件の再生に取り組む地域事業者へのインタビュー（機会があれば、リノベーションへの参加）、③再生された物件の居住者への訪問やインタビュー調査を通じて、地方・田舎における空き物件の利活用と新しいライフスタイルの実践について、その可能性や課題解決（social design）をめざす。



プロジェクトチーム2022
による制作物

「Isumi Never Land」

〈Before〉



こちらの物件のオーナーさんは東京で飲食店を営んでいましたが、「サーフィンがしたい」という思いで海の近くに位置するいすみ市に移住し、空き家のリノベーションを始めました。

当時、東京の職場と千葉の空き家を行き来しながら仕事と空き家の活動を両立していましたが、新型コロナウイルスによる影響がさらに追い風となります。コロナ禍という状況に置かれたことでリモートワークという仕事の選択肢が増えたのです。新たな働き方の確立によって、千葉で空き家再生活動をしなから仕事することが可能となりました。

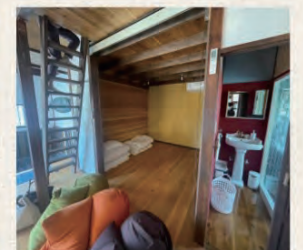


〈After〉



「Isumi Never Land」は、現在宿泊施設として貸出サービスを行っています。こちらの物件は、子どもが楽しめる空間をコンセプトとしており、室内にはロフト、庭にはシンボルであるツリーハウスが設置されています。また、「古いものに対して価値を感じる」という考えから、瓦はリノベーションせず、そのままの形で残していることもこの物件の特徴です。

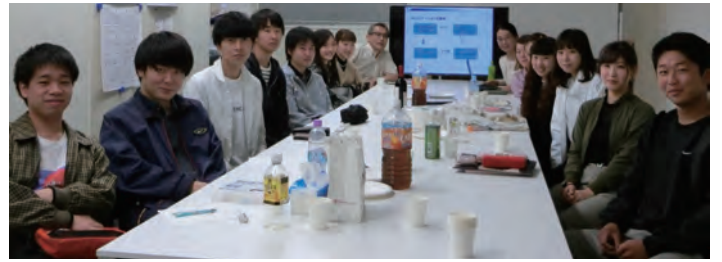
空き家を自らの手で再生し、やりたい仕事へと発展させていくために、オーナーさんはいすみ市に住む人々との交流を大切にしていたと話します。いすみ市は住民と移住者が混合して渡る地域であるため、多方面に切り切れない吸収があります。地域ポランテアへの参加や住民たちを誘ってBBQを開催するといった人間関係やコミュニティ空間へのこだわりが空き家で育まれる将来ビジョンの可能性と言えるでしょう。



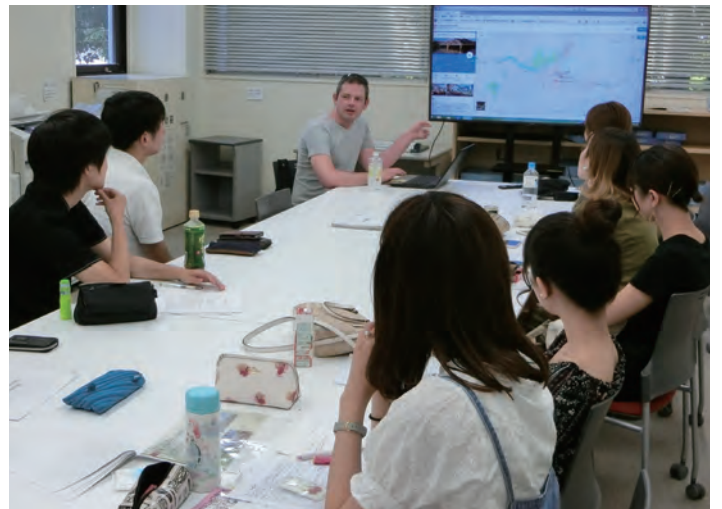
プロジェクト概要

大学卒業後、社会人として活躍する中で、海外との交流は、重要です。本プロジェクトでは海外交流の基本について、習得しました。外国人（カナダ、中国、韓国）の講師を招聘して、海外の文化やマナーを学び、且つ英語によるコミュニケーション手法を習得しました。最終の体験学習として、各自、英語による研究課題（環境学）の報告会（プレゼンテーション）を学内、および、ドイツのTITK研究所で行い、意見交換を行いました。

なお、ドイツの研究所にて、学生達は最先端のリサイクル施設を見学することができました。学生達は、研究者の解説に熱心に耳を傾け、質疑応答が活発になされ、英語力とコミュニケーション能力の成長が認められました。



叢 暁波(そう ぎょうは)先生による中国文化の講義



クリストファー 先生によるカナダ文化の講義



ドイツTITK研究所でのプレゼンテーション



リサイクル施設の見学



ミュンヘンでの散策



「ファッションショーで魅せる横浜スカーフ」

プロジェクト概要

シルク博物館が毎年12月に開催するシルク文化振興のためのイベント(シルキー・クリスマス)に参加します

横浜スカーフを用いたファッションショーの企画から制作・演出、出演、会場の空間構成や装飾まで行うことによって、横浜が世界に誇る捺染技術への理解を深め、シルク文化の継承と発展について考えることを目的とします

●事前準備

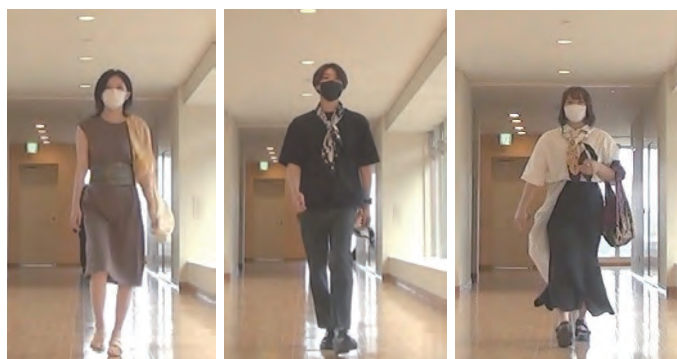
シルクや捺染技術に関する基礎知識とイベント実施までのプロセスや方法を学びます

●2022年度のファッションショー

コロナ禍のため室の木キャンパスで実施し映像化2つのユニットが協働し制作しました

衣装制作・出演 デザイン・プロジェクト5

撮影・編集 海老根ゼミナール



目指すテーマは「映える」横浜スカーフ
「オルタナティブ」「コンテポラリー」「レトロ」「スタイリッシュ」「カラフル」「イケてる」など、現代社会で話題の言葉を衣装で表現します



衣装デザイン、ショーの演出、構成、選曲、ランウェイの歩き方、そしてカメラワーク、映像編集など学生らの創意工夫がみどころです



「たたむ」「つなぐ」「はさむ」「まく」「たらす」など、ごく基本的な手法でつくられた衣装の数々
終了後は、また一枚のスカーフに戻ります

プロジェクト概要

数名でチームを組み、チームでプロモーションビデオを制作します。何をプロモーション対象とするかはチームで相談して決定します（商品、商店街、企業、イベント等）。

対象を決定したチームは、その対象について徹底的に調べて、プロモーションビデオの構成を検討します。必要であれば、対象の関係者と事前の打ち合わせも行います。構成がまとまったチームから、実際にプロモーションビデオの制作を行っていきます。制作したプロモーションビデオは、その対象の関係者に視聴して頂き、ご意見を頂きます。

プロモーションビデオの制作を通じて、社会との接し方や、映像による表現スキルの向上をめざすのはもちろんですが、制作したプロモーションビデオが、実際に活用されれば、大きな社会貢献となります。得られる達成感も大きなものとなるので、積極的な姿勢で取り組みましょう。



横浜のプロモーションビデオの撮影の様子



ファッションショーの撮影の様子



横浜のプロモーションビデオを制作



ファッションショーの撮影の様子



シルク博物館で上映するファッションショーの映像を制作



編集作業の様子

プロジェクト概要

SF思考は国内で注目されている手法です。この手法はSF作家の思考方法を参考にしながら未来を描くということを中心に構築されつつあるものです。未だに手法は構築されたとは言いがたい段階にあり、履修者の皆さんと一緒にワークショップを行いながら手法改善していきたいと思えます。最終的なアウトプットは明るい未来を描いたSF小説となります。全体のフローは以下の通りになります。

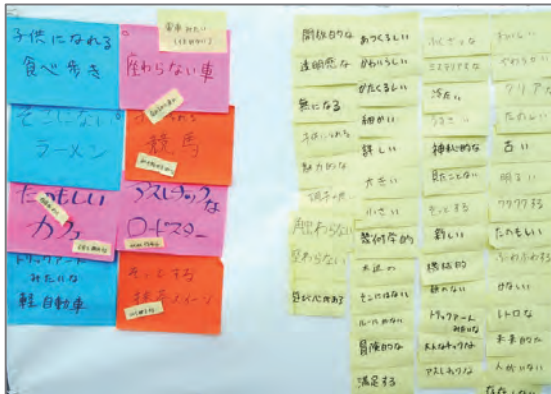


1 SF思考の概念を理解する

2 想定した未来社会のバズワードを作る

3 SF小説の登場人物やストーリーを練る

4 SF小説（プロトタイプ）を作り発表する



▲未来のバズワードを作る過程



▲SF小説を作る過程



▲SF小説（プロトタイプ）を発表している様子



プロジェクトを終えての学生の感想

SF思考を、ワークショップを通して楽しく学ぶことができました。小説を書いたこともないのに、とても新鮮な体験でした。未来を描くのは難しかった。



「デザイン思考の基本をワークショップの体験を通して修得する」

プロジェクト概要

デザイン思考は世界的に注目されている手法で、デザインで行われていたプロセスを商品やサービス開発に応用したものです。このプロジェクト科目では、デザイン思考の基本的な考え方を学ぶと共に、実際にフィールドワークを行って利用者を観察します。観察結果の分析やアイデア出しをワークショップを通じて行います。



デザイン思考教育の総本山 スタンフォード大学 d.school

可能性は低いとは思いますが、社会環境などが整えば希望者を対象に米国スタンフォード大学のd.schoolの見学ツアーを行います。残念ながらスタンフォード大学は、2022年の見学ツアーの受け入れを中止しています（2023年は不明）。

- 1 ユーザーを理解する
- 2 課題を設定する
- 3 アイディアを練る
- 4 プロトタイプを作る
- 5 検証する



▲「新しい食の体験をデザインする」というプロジェクト例では、家庭訪問調査を行いました



▲「アイデアを練る」フェーズの様子



▲ プロトタイプを作成している様子



▲ 出来上がったプロトタイプ



プロジェクトを終えての学生の感想

デザイン思考を、ワークショップを通して学ぶことができた密度が濃く充実した時間でした。いつかは、デザイン思考の総本山であるスタンフォード大学を訪ねてみたいという気持ちが高まりました。

県産木材でウッドデッキと家具を制作



ウッドデッキ制作 (守谷ノ間)



家具制作 (温泉谷戸芸術家村)

森林研修 神奈川県丹沢エリアの森林と製材所を見学し、木が生育する現場から木材となるまでの一連の過程を合宿しながら学びました。

ウッドデッキ制作 空き家再生物件「守谷ノ間」(横須賀市鷹取)に広々とした気持ちのよいウッドデッキが誕生しました。木材は神奈川県産の檜です。

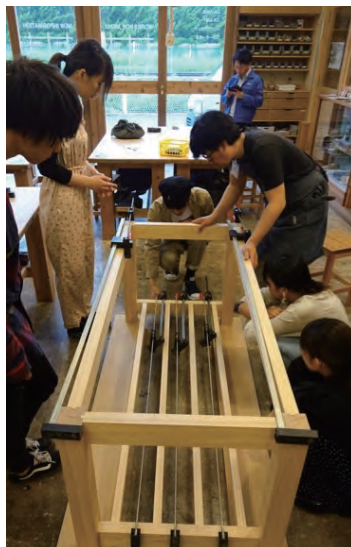
家具制作 空き家となった市営住宅(横須賀市温泉谷戸)が芸術家村として再生されています。その工房の作業台(4台)を県産の檜で制作しました。天板の接ぎ合わせ、組み立て、仕上げなど家具づくりの様々な工程を学びながら、自分たちの手で見事に完成させました。



森林研修



森林研修



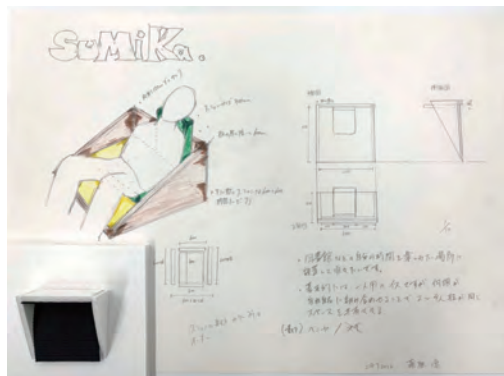
製材所見学

担当教員: 兼子 朋也(かねこ ともや)

自分たちのキャンパスを、自分たちでデザインする

室の木キャンパスを「コミュニティDIY」の手法でより使いやすく楽しい場所にするのが目的のプロジェクト。インテリアのデザインに興味があるけど、デザインには自信がない、DIYをやったことがないという人でも大丈夫。何年もかけて少しずつ、キャンパスを素敵に変えていきましょう！

①構想・デザイン・模型や図面の作成・モックアップの作成



デザイン案のうちのひとつ



一人一案、図面・模型・スケッチを作り発表。話し合いで3案をグループで制作することに。

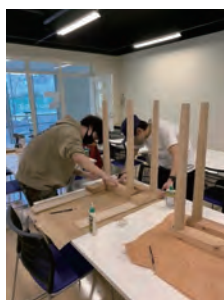


モックアップは実寸で段ボールで作りサイズ感などを確かめます。小学生にも座ってもらい座り心地を聞きました。

②DIYによる製作作業



追浜の「平野材木店」での作業風景



製作作業は主に、9号館のテラスで行いました。

まず最初に、安全な工具の使い方教室から始まります。それぞれ作りたいものに応じて、使う道具は様々ですが、電動のこぎり、電動ドリル、インパクトドライバーなど、一通りのDIY工具の使い方を覚えることができます。

③展示して実際に使ってみよう！



ドーナツ型のテーブルは、数名で使うことができる大きなもの。杉材の天板も自分達ではぎ合わせて製作しました。



左写真：一人で落ちて着いて座れる椅子。囲まれた感じが安心感をもたらします。

右写真：完成したソファは、関東学院六浦小学校の図書館で実際に使ってもらっています。クッションは、横浜の椅子工場に見学に行ってウレタンを発注しました。





担当の淡野です



デザイン・プロジェクト 13

「ストップモーション・アニメ制作」

コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ

プロジェクト概要

クレイ造形を主体としたコマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶプロジェクト実習。特別講師として映画「ノーマン・ザ・スノーマン」シリーズで知られるトップアニメーション・クリエイター八代健志監督に依頼。また八代監督率いる映像CMプロダクション太陽企画「TECARAT（テカラ）」で合同・集中演習授業を行った。現地では3日間の集中実習として、各自「鳥」を制作し、その鳥を使用して実際の機材によりアニメーション制作を行った。その他、八代監督の作品上映、CMや映像制作に関するレクチャー、また映像業界へのリクルートについてご講演いただいた。



八代監督の代表作



スタジオ



ストップモーションの
細かな動きを出す為の関節



制作する道具がズラリ！



スタジオでの実技



完成した学生たちの作品



作品を固定します



撮影状況を確認！



全員での撮影に臨みます



最後に皆で記念撮影！

担当教員：淡野 哲(あわの てつ)



プロジェクト概要

※デザイン・プロジェクト14は2023年度から、「広告のデザイン」にテーマが変更されます。

「自分達で作った作品を、自分達で考えた展覧会に、自分達の手で展示する」というコンセプトです。展覧会のタイトルや会期、設営スケジュール、広報戦略、会場構成や会場に掲示する挨拶文、備品と予算など、展覧会を構成する要素について、学生達が話し合いながら作業を進めていきます。

プロジェクトに参加した学生が制作してきた作品は、「イラスト」「写真」「立体物」という、ジャンルも展示形態も異なるものでした。これらの作品を一つの会場で共生させるため、会場を下見したり、お互いの作品を見せ合って説明したりしながら、会場構成を考えました。

イラストを入れる額の大きさや材質など、作品を魅力的に展示するための備品も、学生自身が選定しています。作品説明文は、レーザー加工機を使用して、アクリル彫刻で表現しました。広報に使用するポスターは、全員で撮影した写真を並べ、さらにそれを撮影した写真を背景として、展覧会のロゴを合成しました。



展覧会会場



イラスト作品と、アクリル製の作品説明文



人間共生学部のFacebookから授業紹介の記事が見られます



ポスター



ゲーム作品



デザイン・プロジェクト 15

「空き家再生プロジェクト」の体験と調査

*デザイン・プロジェクト 16と連携して実施します。



FIELD STUDY - B
IN SHIMANAMI

国際的な注目をを集めている瀬戸内の「しまなみ海道」。私たちは、昨年8月フィールドスタディBという授業の一環で、全長70キロのしまなみ海道をロードバイクで2日間かけて走破。道中の尾道、大三島、今治で空き家再生事例を見て感じたことをまとめた。

広島県尾道市

NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト

— 廃墟化した空き家に新しい価値を —

尾道の斜面地には500軒の空き家が密集している。高齢化とともに坂暮らしが難しくなり、空き家になってしまったのである。そこで2007年、空き家を再生する事業が始まった。廃墟化した空き家は、次々とカフェやゲストハウスなどへと生まれ変わった。古い街並みに新しい価値が付与された空き家が溶け込み、ぶらぶら散歩するのがとにかく楽しい。

— 観光客を移住者に —

2009年、市から委託を受け「尾道市空き家バンク」事業を開始。これまでに約90軒の空き家と移住希望者をつなげてきた。人数にして約150名、驚くことにその多くが20代～30代の若者である。空き家再生プロジェクトは尾道に多くの観光客を呼び込んだだけでなく、観光をきっかけに移住者までも増やしたのである。

もともと尾道の魅力に惹かれ移住してきた人が、今や尾道の魅力を創り出す側になっている。

— あなごのねどこ —

長細いから「あなごのねどこ」と名づけられたこのゲストハウスは、すべてボランティアとNPOスタッフの手作りである。しかし、本来、町屋を再生することはとても難しい。一般的に町屋は通りに面する店舗部分とその奥の住居部分からなるのだが、店舗部分が閉まって使われていなかったとしても、奥の住居部分にはまだ住民が住んでいるケースが非常に多い。つまり両方が空き家になれば売値・買値が低いため、なかなか改修できないのが現状である。

— みはらし亭 —

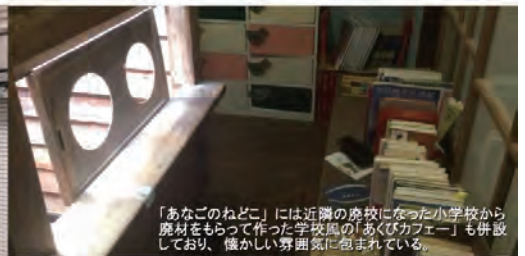
尾道の山手地区は昔から「茶園」という別荘建築の多い地域であり、「みはらし亭」もその一つ。ゲストハウスとなる建物部分はすべて職人さんが改修を手掛けたが、玄関前の小さな庭はボランティア学生25名が可愛いタイルや建物に使われていた古い瓦で装飾する遊び心も。ちなみに、現在「みはらし亭」に住み込みで働いている唯一のスタッフがその当時ボランティアとして参加していた学生の一人だという。



代表 豊田 雅子さん
「移住しても自分のスキルを生かせる町づくりがしたい」豊田さんのその言葉の通り、移住して1日1人限定の海が見える美容院を営む方、夫婦で小さなパン屋さんを営む方…尾道では空き家にただ住むだけでなく、こうして思い思いに開業する移住者も多い。



「ガウディハウス」
2007年、旧和泉家別邸を職人の手によって改修。完成時期は未定であるが、ガウディのサグラダ・ファミリアから「ガウディハウス」という愛称がつけられた。中には古いラジオや電話などがそのまま残っており、昭和にタイムスリップしたかのような。以前はAIRのアート作品の舞台にもなった。山本基さん「迷宮」(作品の写真) 油さしに入れた塩で床しつらに緻密な模様を描いた作品。



「あなごのねどこ」には近隣の廃校になった小学校から廃材をもらって作った学級風の「あぐりカフェ」も併設しており、催しかしい雰囲気にもなっている。



その名の通りの見晴らしが非常によく、尾道の街並みを一望する事ができる。

AIR Onomichi

— Artist in residence Onomichi —

国内外のアーティストが尾道に滞在し、空き家を舞台に創作活動を行う。アーティスト自身が住むのも三軒家アパートメントという元空き家、もちろん部屋の修繕は各自で行う。完成したアート作品はツアーで巡り、一定期間公開したのち撤収する。本当は常設展示したいと小野さんは話していたが、作品の維持・管理は簡単なことではない。



代表 小野 環さん(尾道空き家再生プロ 副代表)
今はアートを鑑賞する「空間」より「場所」が重要視されるようになったと思う。だから、白い壁で囲まれた美術館ではなく尾道の山手にある空き家でアートを鑑賞してほしい。そう思って始めたのがAIRプロジェクト。

空き家再生の手法



→ リノベーション → 職人に委託し、本格的な仕上がりに
→ ボランティアを募り、手作り感を
→ 「AIR」プロジェクトで空き家をそのままアート作品に



担当教員: 兼子 朋也(かねこ ともや)



「空き家再生プロジェクト」の体験と映像制作

*デザイン・プロジェクト 15と連携して実施します。



愛媛県大三島

NPOしまなみアイランド・スピリット 事務局 小林 順子さん

2011年、行政から委託を受け空き家バンク事業を開始。
現在までに106名が新たに島暮らしを始め、47軒の空き家に住み手が見つかった。
大三島では空き家の店舗利用は少なく、ほとんどが住居利用である。
全国どこでも地方自治体も抱える人口減少や過疎化という問題を放っておけば、
その土地の伝統の祭りや文化を受け継ぐ担い手がなくなってしまう。
そのため、こうした移住者の支援事業は地方の将来を救うことに繋がっているのである。



移住に先立ち NPO スタッフが面接を行い、地域の行事に積極的に参加してもらえるかどうかなど

事前に島の暮らしや地域のコミュニティに馴染めるようアドバイス



小林さんご自身も東京から移住。
現在は移住希望者を物件に案内し島暮らしを支援。



—憩いの家—
廃校になった小学校を丸ごとゲストハウスに改修した。教室の前には木の廊下がずーっと続いており、寝転がったり、座って外を眺めたり何時間でもそこに居たくなるような居心地の良さ。

愛媛県今治市

シクロツーリズムしまなみ 代表理事 吉武 優子さん

シクロツーリズムとは自転車旅行のこと。主にしまなみ海道のガイドや宿泊事業を行うNPO。代表の吉武さんは高度経済成長期は高級車や新幹線など、お金のかかる早い乗り物が人々の注目を集めていたが、低成長期に入ってからマウンテンバイクブームが訪れ、今はロードバイクが流行している。比較的手軽で速い乗り物が支持されているのである。吉武さんが見据えるのは来たる旅ブームである。「自転車の旅・スローサイクリングを日本の文化にしていきたい」と話していた。



—シクロの家—
しまなみ海道へは多くのサイクリストが訪れるが、その多くが日帰り、または今治に到着してもすぐに他の場所へと移動してしまっていた。そこで今治に宿泊してもらう人を増やそうと、今までなかったサイクリスト向けのゲストハウス「シクロの家」をつくった。女性のデザイナーが手掛けたゲストハウスとあって、いびきが気になる人へ耳栓100円、地元の職人さん手作りのベッドには大きな鏡まで。宿泊客への細やかな気遣いが随所にみられた。



しまなみ海道にある島々は連携しつつも「独自性」をもち、「差別化」を図らなければならない



「空き家」という負の財産と思われがちだが、今回私たちが訪れた尾道・大三島・今治では、いずれも「空き家」を地方の財産と捉えていた。私たちは、その空き家の様々な再生事例を見て、地域のために尽力する NPO の方やそこに移住してきた方と出会ってきた。それは、今住んでいる場所で普通に就職し、来年から社会人になるという私たちの”当たり前”を見つめ直すきっかけとなった。住む街や家、生き方、仕事にはこんなにも多くの選択肢があることを、これからも忘れずにいたい。

【参加者】

写真左から：山崎 稔恵先生、丸山 のどか、宮川 菜摘、田子 香純、砂川 航希、木村 祐介、日高 仁先生、馬場 俊一先生、兼子 朋也先生

キャンパス案内

人間共生学部 コミュニケーション学科、共生デザイン学科は金沢八景キャンパスです。
コミュニケーション学科は2023年4月から横浜・関内キャンパスに移転予定です。

横浜・関内キャンパス



- 横浜・関内キャンパスの最寄り駅は、JR京浜東北線・根岸線の「関内駅」で、横浜駅から約5分、東京駅から約40分です。
- JR関内駅南口から徒歩約2分です。
- 横浜市営地下鉄ブルーラインの関内駅や伊勢崎長者町駅、みなとみらい線の日本大通り駅も利用可能です。

金沢八景キャンパス



- 人間共生学部の最寄り駅は、京浜急行の金沢八景駅で、快特で横浜から約20分、品川から約40分です。
- 金沢八景駅からは徒歩約15分。京急バス「八八系統 関東学院循環」利用では約5分（関東学院東下車）です。
- 八景島を通る横浜新都市交通金沢シーサイドラインの野島公園駅も利用可能です。

お問い合わせ先：

関東学院大学 学部庶務課（人間共生、教育、栄養、看護学部）
TEL：045-786-7760
住所：〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1
E-mail：ninshomu@kanto-gakuin.ac.jp



人間共生学部ホームページ
<https://kyousei.kanto-gakuin.ac.jp/>